

2013年7月9日

尾池和夫

東北芸術工科大学「藝術立国」碑除幕式祝辞

「藝術立国」の碑、京都造形芸術大学でも、5月31日に除幕式があり、同じ黒御影石にしっかりと3行の文が刻まれております。墨跡は植松弘祥氏です。今ちょうどバスから降りた学生たちが数人、この除幕したばかりの石碑を見上げて大学への階段を上って行きました。

「宇宙の神秘に平伏せ 地球の偉大さに畏れを抱け 生きとし生きる命を愛し尊べ」とあります。この3行は昔から東洋にある「天地人」、すなわち三才の考え方を意味していると私は思っています。地球社会全体が調和を保ちつつ共生することによって平和を実現することを意味していると思いつつ、今この地に立っています。

碑文の刻まれたこの黒御影石は、インドの南部の産だそうです。インド大陸は、かつてアフリカの東側にあり、地球の深部で生まれた、この黒く輝く閃緑岩や斑糲岩を載せて北上し、ユーラシア大陸に4000万年前頃に衝突しました。そのプレートの北端が潜り込むことによって、ヒマラヤ山脈が隆起し、広大な青海チベット高原が生まれました。まさに、地球の偉大さを知る石碑と言えるでしょう。

東北芸術工科大学の丘の石碑の横にたつて月山を遠望し、京都造形芸術大学の59段の階段の上にある石碑の横に立って愛宕山を見通しつつ、これら両大学の連携の象徴としての意味を、学生たちにも伝えていきたいと思っています。